



新聽蛙集初編 上

鳥山藏書

第	部
第	數
NO.	
全	冊
摘要	

特別
イ 4
3163
18(1)









鶯蛙集上卷

春部

立春

Handwritten Japanese text in cursive style, arranged in vertical columns from right to left. The text is a collection of poems for the Spring section.

岡部 真淵  
岩崎 尊孫  
山田 百枝  
島 重光  
榎 大種  
神 易興  
福 幸年  
高内 清夫

Handwritten Japanese text in cursive style, arranged in vertical columns from right to left. This appears to be a preface or a specific poem.

Handwritten signature or name in cursive style.

序二



九日くほけし海ふらりて

九日くほけし海ふらりて

根部 中庸

四方拜のりからりて

四方拜のりからりて

松田 直兄

若水

初日朝のりからりて

鈴木 泰平

初日朝のりからりて

保成

初春

眉のりからりて

兼清 美一

望月のりからりて

望月 陶政

鶯二

梅のりからりて

岩橋 時夏

目かろのりからりて

増田 昭信

大かろのりからりて

本居 内遠

まかろのりからりて

静岡 三積

まかろのりからりて

早川 清魚

まかろのりからりて

平 依古

ひかろのりからりて

繫樹

まかろのりからりて

増田 年長

あかろのりからりて

岩崎 美隆

まかろのりからりて

安田 正脩

山初春

初春風

初春雪

初春霞

初春雲

初春月

初春風



初よりとほりてはやくはねおきも神をうくるまは  
 幸年 高勝房  
 幸年 幸年  
 盤里 僧 周 祭  
 本 安 彦  
 村 春 門  
 小 真 種  
 矢 弘 岡  
 竹 茂 枝  
 栗 土 満  
 子 日 遊 身  
 若 菜

鶯 四

かきこころ神より神人の言をうけて影をうくるまは  
 福 全 赤 井 夏 門  
 君の心もあつたおのこを神の心もあつたおのこ  
 龍 知 雄  
 ちかひくつみ一狼背ふまの日の本にわさしとみまあつた  
 二 神 永 世  
 夫の日をさるるやわづらぬやうむまのつひに神を教ふ  
 衣 廣 滋  
 清くも書のあつたと夫の神の心もあつたおのこ  
 若 菜  
 田上 若 菜  
 都 若 菜  
 贈 若 菜  
 七十こふちうへつる正月七日ふよめ

依 古 諸 平 忠 順 廣 滋 永 世 龍 知 雄 福 全



霞

老うふ又つ女さつしんばすといひつらつていませ  
おのちのこをいしこきみれを霞ふ清ぬめいもね  
うらねいさき霞たつら川風ふさつ梢やきいめさる系  
やう雀のうらねる系の木ききこころをねくはつる霞うね  
おのちを霞きと見ればよき霞し梢をうらしき霞霞うね  
みらねいさきのさき中へ人のあはれを霞く霞むいさね  
わさ霞霞ふさつねいさきのさき中へ霞うらねいさ  
安閑の氏の電の煙うらねるさき中へ霞うらねいさ  
おのちを霞うねるさき中へ霞うらねいさ  
おのちのまきのみりねくさつねいさ霞霞霞みでさ

三島 自寛  
伊達 千廣  
今堀 重遠  
僧 知空  
平松 清魚  
高橋 英棟  
池部 田鶴女  
長井 真捺  
長井 裁之  
蟹里

山霞

薄霞のゆるく上り霞きて下り霞ぬるさのいさ山  
えまひくま霞うらねいさき中へ霞うらねいさ  
まきよおつしき霞のあつておまか霞むいさきの中  
おひさきまきいさきの霞霞あつておまか霞うらね

お田 善朋

暮山霞

あひさきまきいさきの霞霞あつておまか霞うらね

上月 為茂

遠山霞

隅田川柳さつらうの末を霞うらねいさき中へ霞うらね  
いさき中へ霞うらねいさき中へ霞うらねいさき中へ霞うらね

先謙

野霞

ゆるゆる霞うらねいさき中へ霞うらねいさき中へ霞うらね  
いさき中へ霞うらねいさき中へ霞うらねいさき中へ霞うらね

近藤 芳樹

海辺霞

いさきのちやうちうらねいさき中へ霞うらねいさき中へ霞うらね  
いさき中へ霞うらねいさき中へ霞うらねいさき中へ霞うらね

後栄

いさき中へ霞うらねいさき中へ霞うらねいさき中へ霞うらね  
いさき中へ霞うらねいさき中へ霞うらねいさき中へ霞うらね

久浮 大種



山家鶯 鶯のさかたけのこゝろをさかたけしつゝさかたけさかたけ  
 松間鶯 世をさかたけさかたけさかたけさかたけさかたけさかたけ  
 柳間鶯 鶯のさかたけさかたけさかたけさかたけさかたけ  
 鶯をさかたけしつゝさかたけ

尊孫

三訓

森本 近

鶯のさかたけさかたけさかたけさかたけさかたけ

本房 永平

鶯有 慶音

鶯のさかたけさかたけさかたけさかたけさかたけ

本房 藤女

春 氷

おきさかたけさかたけさかたけさかたけさかたけ

赤孫 整里

春 雪

さかたけさかたけさかたけさかたけさかたけ

人交 守一

鶯のさかたけさかたけさかたけさかたけさかたけ

小倉 美孝

鶯 七

山家 春雪

さかたけさかたけさかたけさかたけさかたけ

清彦 濱巨

残 雪

さかたけさかたけさかたけさかたけさかたけ

北島 孝吉

子の目まわしおぼろげな雪を命をのぞくさかたけ

湯川 顕周

目まわしおぼろげな雪を命をのぞくさかたけ

湯川 顕周

おののけさかたけさかたけさかたけさかたけ

長田 友女

餘 寒

おののけさかたけさかたけさかたけさかたけ

長田 友女

おののけさかたけさかたけさかたけさかたけ

清彦 清魚

おののけさかたけさかたけさかたけさかたけ

富永 芳久

目まわしおぼろげな雪を命をのぞくさかたけ

鳥 鞆



梅風	梅	夕梅	岡梅	森梅	水辺梅	里海	山家梅
いづれも梅の風をよみしるは梅の風をよみしるは	いづれも梅の風をよみしるは梅の風をよみしるは	夕梅の風をよみしるは梅の風をよみしるは	岡梅の風をよみしるは梅の風をよみしるは	森梅の風をよみしるは梅の風をよみしるは	水辺梅の風をよみしるは梅の風をよみしるは	里海の風をよみしるは梅の風をよみしるは	山家梅の風をよみしるは梅の風をよみしるは
本居 春庭	本居 春庭	尾崎 三積	山田 久林	都築 敏	大塚 正捕	江川 秀守	久保 淳

窓梅	梅薰袖	梅花	紅梅	夕落梅	夜落梅	二月	柳
梅の窓は梅の白くは梅の白くは梅の白くは	梅の袖は梅の白くは梅の白くは梅の白くは	梅の花は梅の白くは梅の白くは梅の白くは	梅の紅は梅の白くは梅の白くは梅の白くは	梅の夕は梅の白くは梅の白くは梅の白くは	梅の夜は梅の白くは梅の白くは梅の白くは	梅の二月は梅の白くは梅の白くは梅の白くは	梅の柳は梅の白くは梅の白くは梅の白くは
久秋	益谷 未壽	山田 恒	賀茂 好	松村 容隆	西山 秀守	西山 道塔	小出 美韶









海辺  
春雨

里春雨

山家  
春雨

田家  
春雨

閑居  
春雨

帰雁

あつちのうらなひのうらなひ

楓の葉のうらなひのうらなひ

まはらばのうらなひのうらなひ

山のうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

源女

菅賢

保成

茂枝

高房生

小谷  
昌守

植松  
茂岳

繁樹

飯田  
正彦

汐女

帰雁  
知春

月前  
帰雁

雨中  
帰雁

曉  
帰雁

海辺  
帰雁

あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

重道

須賀  
女

富吉  
成章

無代  
女

山中  
義信

芳樹

安  
乃女

大成

美韶

和夫



櫻

清魚  
 美濃女  
 正盈  
 玉置安緒  
 本建正  
 上田宜珮  
 蓬萊久方  
 為彦  
 芝魚千御  
 清川

待花

菊田 関雄  
 武田 百枝  
 若上 足穂  
 周田 元茶  
 笠田 清雄  
 山花 盤樹  
 官結 好古  
 僧 古道  
 花 重遠

花初開  
初花

おのゝねがやうかたふぬ初花さけりし美のこころを  
おのゝねがやうかたふぬ初花さけりし美のこころを

孫重  
石武政

感花

はま初指さけりし初花さけりし美のこころを  
はま初指さけりし初花さけりし美のこころを

清魚  
永平

老後  
見花

いづれかたふぬ初花さけりし美のこころを  
いづれかたふぬ初花さけりし美のこころを

通孝  
安歎

遠見  
山花  
思花

おのゝねがやうかたふぬ初花さけりし美のこころを  
おのゝねがやうかたふぬ初花さけりし美のこころを

通孝  
春房  
正盈

毎年  
愛花

おのゝねがやうかたふぬ初花さけりし美のこころを  
おのゝねがやうかたふぬ初花さけりし美のこころを

市川  
音澄

翫花

おのゝねがやうかたふぬ初花さけりし美のこころを  
おのゝねがやうかたふぬ初花さけりし美のこころを

孫重  
春門

折花

おのゝねがやうかたふぬ初花さけりし美のこころを  
おのゝねがやうかたふぬ初花さけりし美のこころを

大塩  
安道

人の心をさするは花の如し

おのゝねがやうかたふぬ初花さけりし美のこころを  
おのゝねがやうかたふぬ初花さけりし美のこころを

中島  
廣足

花挿頭

おのゝねがやうかたふぬ初花さけりし美のこころを  
おのゝねがやうかたふぬ初花さけりし美のこころを

汎近

月前花

おのゝねがやうかたふぬ初花さけりし美のこころを  
おのゝねがやうかたふぬ初花さけりし美のこころを

正盈

雨中花

おのゝねがやうかたふぬ初花さけりし美のこころを  
おのゝねがやうかたふぬ初花さけりし美のこころを

年長  
乃口



為亮  
 源女  
 富永  
 八田  
 知紀  
 長徳  
 直見  
 繁里  
 為亮

行路花  
 池邊花  
 川花  
 海邊花  
 社頭花  
 古寺花  
 國胤  
 氏純  
 菅賢  
 峰頭  
 久達  
 小四  
 光満  
 汎近  
 年長  
 僧  
 石翁

山寺の  
あまひそ

山寺のあまひそはつゆの井もつゆのまよひもみえさう

保成

禁中花

うちらひぬまのりけりよふ花の標えらくおのりて

大成

里花

ふくやまのあまひそはつゆのまよひもみえさう

友實

幽栖花

ひびくつゆのあまひそはつゆのまよひもみえさう

清直

荒屋花

まよひのあまひそはつゆのまよひもみえさう

浩平

庭花

あまひそはつゆのまよひもみえさう

正彦

名所花

あまひそはつゆのまよひもみえさう

うけ女

名所花

あまひそはつゆのまよひもみえさう

伴雄

名所花

あまひそはつゆのまよひもみえさう

浩平

三馬十九

松間花

あまひそはつゆのまよひもみえさう

義質

馬上花

あまひそはつゆのまよひもみえさう

三訓

鞆中花

あまひそはつゆのまよひもみえさう

三積

依花

あまひそはつゆのまよひもみえさう

美韶

待人

あまひそはつゆのまよひもみえさう

清魚

花似雪

あまひそはつゆのまよひもみえさう

塩之

花雪

あまひそはつゆのまよひもみえさう

三冬

花鏡

あまひそはつゆのまよひもみえさう

長春

花 衣

花衣のまはれは家まへに女は居るゝぬまの

草保 鶴女

春情 有花

あやしいのこゝろはまをわらふのぬれは

言 鞆

桜 狩

木のまゆをまうまへにふりかへるゝの

止 守任

心のまゆをまうまへにふりかへるゝの

あまのふゆのせむしをたのむ

あまのふゆのせむしをたのむ

あま

あまのふゆのせむしをたのむ

あまのふゆのせむしをたのむ

夏門

落花

あまのふゆのせむしをたのむ

大 安長

あまのふゆのせむしをたのむ

房生

月 雨  
前 中  
落花 落花

あまのふゆのせむしをたのむ 為彦

あまのふゆのせむしをたのむ 長穂

あまのふゆのせむしをたのむ 大海

あまのふゆのせむしをたのむ 是正

あまのふゆのせむしをたのむ 松樹

あまのふゆのせむしをたのむ 孫重

あまのふゆのせむしをたのむ 仲 安海

あまのふゆのせむしをたのむ 公 章

あまのふゆのせむしをたのむ 善 朋











邊日

永平 敬里 秀守 源女 為彦 廣城 汎近 正典 米田 能知

野遊

多自 爲彦 廣城 汎近 正典 米田 能知

蝶

頭平 美詠 清年 延裕 純門

呼子鳥

菅賢 弘岡 言林 氏純

蛙

氏純



小稻  
 通考  
 古道  
 宗信  
 志公  
 正彦  
 清直  
 為彦  
 濱雄  
 高島  
 宜陽

川山吹  
籬山吹  
藤

小稻  
 通考  
 古道  
 宗信  
 志公  
 正彦  
 清直  
 為彦  
 濱雄  
 高島  
 宜陽

松上藤  
暮春

小稻  
 通考  
 古道  
 宗信  
 志公  
 正彦  
 清直  
 為彦  
 濱雄  
 高島  
 宜陽

暮春月

小稻  
 通考  
 古道  
 宗信  
 志公  
 正彦  
 清直  
 為彦  
 濱雄  
 高島  
 宜陽

小稻  
 通考  
 古道  
 宗信  
 志公  
 正彦  
 清直  
 為彦  
 濱雄  
 高島  
 宜陽

暮春霞 むしづつゆくを霞よりのけりて霞のまゝに 芳樹  
 暮春川 あさけのよきを湊と暮のよきを暮のよきと 飯田 秀雄  
 暮春花 くさけのよきを花のよきを花のよきと 永平  
 暮春藤 暮のよきからむのよきを暮のよきと 友房  
 暮春蝶 暮のよきを蝶のよきを蝶のよきと 吉田 経路

残春 あさけのよきを暮のよきを暮のよきと 山本 清女  
あさけのよきを暮のよきを暮のよきと 美記  
あさけのよきを暮のよきを暮のよきと 清魚

芳樹  
飯田  
永平  
友房  
吉田  
山本  
美記  
清魚

惜春 あさけのよきを暮のよきを暮のよきと 舟橋 惟道  
 三月盡 あさけのよきを暮のよきを暮のよきと 安守  
 三月盡 あさけのよきを暮のよきを暮のよきと 保成  
 三月盡 あさけのよきを暮のよきを暮のよきと 三訓  
 春日 あさけのよきを暮のよきを暮のよきと 繁樹  
 春夕 あさけのよきを暮のよきを暮のよきと 公信  
 春夜 あさけのよきを暮のよきを暮のよきと 守一

舟橋  
惟道  
安守  
保成  
三訓  
繁樹  
公信  
守一



美孝

春山 望見

春色 周政

馬飲 保成

春流 汎近

春田 昭信

春川 吉田羅

春海 渚平

幸年

芳久

春夜鳥 俊雄

春眠 善水

春眠 末田正勝

春夢 良臣

保成

善明

善明



惜更衣

色はくちあそびしをくちあはれい月をこゝろに  
 石家 龍磨  
 一衛  
 弦重  
 あけ女  
 長穂  
 殿村 茂樹  
 昭信  
 一衛  
 源女  
 流平

四月朔日

大神祭使

餘花

新樹

剛も今やぬしのひし世はなまじきとらし梅こゝろ  
 内遠  
 田鶴女  
 正方  
 直道  
 裁之  
 の女  
 容隆  
 高橋 弘泰  
 濱雄  
 咸次

新樹坊月

林新樹

鳩のゆく山林をくちあはれい月をこゝろに

咸次

















五月雨

幸しきとておのれをたぐひしるふらりぬ五月雨

湯浅 之方

川 五月雨

かみのみえれ初おと棟ちうとせしうとくはもつな

千廣

古宅 五月雨

とらふさうとてまけし打ぬちう目録ちうおのれ五月雨

曇秀

五月雨 晴

梅のつゆあつちうおのれおのれちうあつちうおのれ

福 孝平

五月のあつちうおのれちうあつちうおのれ

尊信

五月のあつちうおのれちうあつちうおのれ

義質

五月のあつちうおのれちうあつちうおのれ

鶴走

五月のあつちうおのれちうあつちうおのれ

俊雄

五月のあつちうおのれちうあつちうおのれ

秀守

三十九

水 鷄

月 鷄  
水 鷄

夏 月

五月のあつちうおのれちうあつちうおのれ

保成

五月のあつちうおのれちうあつちうおのれ

藤女

五月のあつちうおのれちうあつちうおのれ

言林

五月のあつちうおのれちうあつちうおのれ

清魚

五月のあつちうおのれちうあつちうおのれ

百枝

五月のあつちうおのれちうあつちうおのれ

能知

五月のあつちうおのれちうあつちうおのれ

和男

五月のあつちうおのれちうあつちうおのれ

秀守

五月のあつちうおのれちうあつちうおのれ

典女

佐木 喜彦

雨後  
夏月

夕星のわらわの影をみればおぼろけの月影

勝房

野夏月

ゆふいづの草の影をみればおぼろけの月影

安蔭

水邊  
夏月

水のかげの影をみればおぼろけの月影

周政

池夏月

池のわきの影をみればおぼろけの月影

小指

川夏月

川のほとりの影をみればおぼろけの月影

易良

海邊  
夏月

沖つちの波の影をみればおぼろけの月影

忠頭

浦夏月

磯のわきの影をみればおぼろけの月影

成美

山家  
夏月

山の本の影をみればおぼろけの月影

建正

樹陰  
夏月

樹のわきの影をみればおぼろけの月影

三積

松間  
夏月

松のわきの影をみればおぼろけの月影

義實

瞿麥

瞿麥の花の影をみればおぼろけの月影

長女

瞿麥

瞿麥の花の影をみればおぼろけの月影

景康

瞿麥

瞿麥の花の影をみればおぼろけの月影

景康

瞿麥

瞿麥の花の影をみればおぼろけの月影

景康

瞿麥

瞿麥の花の影をみればおぼろけの月影

景康

瞿麥

瞿麥の花の影をみればおぼろけの月影

景康

紫陽花

紫陽花の花の影をみればおぼろけの月影

精芳

紫陽花

紫陽花の花の影をみればおぼろけの月影

精芳

紫陽花

紫陽花の花の影をみればおぼろけの月影

精芳

紫陽花

紫陽花の花の影をみればおぼろけの月影

精芳

紫陽花

紫陽花の花の影をみればおぼろけの月影

精芳





草間螢

妹屋ふけしとて神人の姑婆をうたてられとてよ螢うぬ

直見

籠中螢

とつねに螢を籠の中に入れておいては

百枝

夕顔

二月の夕顔はあけ霧を初めとて夜のあけの光

久淳

なをうたふ清き水はあけ霧を初めとて夜のあけの光

年蔭

さうさう井のすゝみのひさしとてゆくと清き水はあけの光

廣足

かきしとてあけ霧を初めとて夜のあけの光

景康

蚊遣火

かきしとてあけ霧を初めとて夜のあけの光

俊彦

かきしとてあけ霧を初めとて夜のあけの光

吉満

かきしとてあけ霧を初めとて夜のあけの光

有年

かきしとてあけ霧を初めとて夜のあけの光

善明

曉

蚊遣火

かきしとてあけ霧を初めとて夜のあけの光

望見

深夜

蚊遣火

かきしとてあけ霧を初めとて夜のあけの光

繁樹

蓮

かきしとてあけ霧を初めとて夜のあけの光

俊雄

かきしとてあけ霧を初めとて夜のあけの光

ひね女

かきしとてあけ霧を初めとて夜のあけの光

古式

かきしとてあけ霧を初めとて夜のあけの光

うね女

かきしとてあけ霧を初めとて夜のあけの光

長徳

雨中蓮

かきしとてあけ霧を初めとて夜のあけの光

長徳

かきしとてあけ霧を初めとて夜のあけの光

月守

採蓮曲

かきしとてあけ霧を初めとて夜のあけの光

康敬







かみ川	瀧下	水邊	夕納涼	朝納涼	
良臣	敬女	建正	成章	芳久	廣城
武清	善朋	弘佳			
兼也	長總				

廣田(十一)

泉	水殿	船中	納涼	海邊	納涼	未の川
秋	風	納涼		納涼		
進	涼	涼		涼		
廣雄	漁女	正甫		通駿	周政	保成
				石井		
				芳樹		

螢火  
秋近  
晩夏

かろうのふゆのやがて

永喜

針のさす

三子

日よりの

孫吉

行く

昭信

み

菅賢

晩夏  
螢

川

善水

六月  
秋

草

芝彦

み

昌守

り

安且

夏  
雲

か

葉香

夏  
雨

雨

房生

夏  
待日  
待雨

夕

内遠

夏  
風

夕

昌守

夏  
露

山

河村  
孝正

夏  
暁

山

阿部  
繁根

夏  
朝

月

安海

夏  
朝

清

安彦

夏  
朝

月

百枝

夏  
朝

月

為彦

馬四十五



夏人事  
夏衣

山崎と志原とそられとてはなかりと及ぬも特舟とくみも  
とてふもあかしくいふとてその船をそむけはたしぬ  
とてふもあかしくいふとてその船をそむけはたしぬ

正方  
高平  
善水

秋部

立秋

いふらうとれぬそあめぬとてお号と秋とほろとく

濱雄

あつらうと稲妻かたきと秋はふとてとてあつらうと秋はふと

俊雄

秋のあつらうと秋のあつらうと秋のあつらうと秋のあつらうと

保成

あつらうと秋のあつらうと秋のあつらうと秋のあつらうと

藤女

立秋風

やつらぬとて秋のあつらうと秋のあつらうと秋のあつらうと

真由羅

立秋曉

あつらうと秋のあつらうと秋のあつらうと秋のあつらうと

春雄

海立秋

あつらうと秋のあつらうと秋のあつらうと秋のあつらうと

松樹

七月七日秋

天の川と秋のあつらうと秋のあつらうと秋のあつらうと

良臣

初秋

こころまじいふらさるる秋の初めありてちかき  
秋の初めは清き水に映るる山の色は  
秋の初めは清き水に映るる山の色は  
秋の初めは清き水に映るる山の色は  
秋の初めは清き水に映るる山の色は  
秋の初めは清き水に映るる山の色は  
秋の初めは清き水に映るる山の色は  
秋の初めは清き水に映るる山の色は  
秋の初めは清き水に映るる山の色は  
秋の初めは清き水に映るる山の色は

藤田 権尹

竹内 繁葉

黒澤 秀守

中清

春庭

清平

忠順

清魚

うた

平岡 雅足

山初秋

初秋露

初秋風

初秋月

田上 初秋

海辺 初秋

湖上 初秋

初秋虫

初秋螢

初秋夜

幽柵 秋来

残暑

あきのほろろと秋の初めは  
あきのほろろと秋の初めは  
あきのほろろと秋の初めは  
あきのほろろと秋の初めは  
あきのほろろと秋の初めは  
あきのほろろと秋の初めは  
あきのほろろと秋の初めは  
あきのほろろと秋の初めは  
あきのほろろと秋の初めは  
あきのほろろと秋の初めは

百枝

安さ

芳樹

弘佳

美韶

清川

廣足

永世

仲雄

幸年



七夕 草花

早あいの朝はぬひをせむあまのめとあめぬ花のよき妻

汎近

七夕 衣

うさぎの母のねらうとせむ衣をせむはむとせむあまのむ

辛年

七夕 別

天の門へ入らばつとせむあまのむとせむあまのむ

清夫

閏月 七夕

なつかしうあつたふりつとせむあまのむとせむあまのむ

敬美

萩

天竺のつとせむあまのむとせむあまのむ

為彦

夕萩

入り萩のつとせむあまのむとせむあまのむ

向峯

萩風

とせむあまのむとせむあまのむ

高平

夕萩

とせむあまのむとせむあまのむ

常鳴

夕萩

とせむあまのむとせむあまのむ

舎柱

八甲

鳴五十二

夜萩

月清のあまのむとせむあまのむ

服部 文樹

幽居萩

かここの萩のつとせむあまのむとせむあまのむ

廣豆

萩

とせむあまのむとせむあまのむ

いん

萩

とせむあまのむとせむあまのむ

易兵

萩

とせむあまのむとせむあまのむ

白石 柳在

萩

とせむあまのむとせむあまのむ

忠貞

月前萩

とせむあまのむとせむあまのむ

栗山 秀守

萩露

とせむあまのむとせむあまのむ

古代 女

庭萩

とせむあまのむとせむあまのむ

永世

庭萩

とせむあまのむとせむあまのむ

千廣



朝顔

あはれなる麻のすけらけあはれなる花をみんうら

自寛

きりぎりすのうらみあはれなる花をみんうら

正盈

あはれなる花をみんうら

年産

あはれなる花をみんうら

清魚

女郎花

あはれなる花をみんうら

中西之

あはれなる花をみんうら

千々

あはれなる花をみんうら

正孝

月州

あはれなる花をみんうら

為彦

芭

あはれなる花をみんうら

高鞞

あはれなる花をみんうら

汎近

道五十一

閑居芭

あはれなる花をみんうら

景秀

刈萱

あはれなる花をみんうら

美韶

葛

あはれなる花をみんうら

濱雄

草花

あはれなる花をみんうら

文清

あはれなる花をみんうら

良臣

あはれなる花をみんうら

景樹

あはれなる花をみんうら

春庭

月前草花

あはれなる花をみんうら

孫重

草花  
非一  
桐栞のぬきこり

ふみまむ方こそぬきし  
花の世にぬきまむ  
守一

稻妻

とちの軒ぬきまむ  
くつる今か  
周政

遠山の松のむき  
清夫

舟のむき  
昌守

海辺  
稻妻  
小鷹侍

舟のむき  
義篤

鶯五十四

露

とどろきあはれ  
文清

ふりし  
孝澄

月前露

浅山  
可清

田上露

真史

虫

真種

清島

俊雅

神を... 竹村 枝

... 中村 通

月前虫 かのしの松をぬれ... 美孝

... 安蔭

... 秀雄

夜虫 ... 秀恭

... 緒平

野虫 ... 守年

... 延年

蜻 秋をぬか... 清川

菅五十五

撰虫 ... 百枝

... 茂岳

若... 美都

... 内遠

野分 ... 和男

... 頼中

野分 ... 高朝

... 尊澄

秋風 ... 濱堆

水迎 秋風  
 田上 秋風  
 竹經 秋風  
 駒 迎

残桜  
 善明  
 真野 美濃女  
 僧 貫忠  
 僧 道利  
 僧 賢教  
 一  
 安海  
 正胤  
 尊澄  
 月

馬五十六

十廣  
 年蔭  
 諸平  
 安蔭  
 真野 桂女  
 是正  
 浅井 廣俊  
 河野 徳能  
 服部 保真  
 蒲 八十村

月 <small>の</small> あ	秋告
月 <small>の</small> あ	清魚
待月	内達
待月	易興
待月	繁里
待月	美孝
待月	繁葉
待月	尊孫
待月	清魚
待月	残桜

五十七

月初昇	尊澄
頃月	田鶴女
月欲入	久妹
二日月	中江千別
八 <small>十五</small> 度	容隆
無月	為彦
十五 <small>夜</small>	百枝
十五 <small>夜</small>	保成



深夜月

いづれもはなれぬ月をいふは  
あまのついでに秋の月をいふは  
あまのついでに秋の月をいふは

千廣

山月

あまのついでに秋の月をいふは  
あまのついでに秋の月をいふは  
あまのついでに秋の月をいふは

光妹

月出山

あまのついでに秋の月をいふは  
あまのついでに秋の月をいふは  
あまのついでに秋の月をいふは

菅賢

深山月

あまのついでに秋の月をいふは  
あまのついでに秋の月をいふは  
あまのついでに秋の月をいふは

保成

松月

あまのついでに秋の月をいふは  
あまのついでに秋の月をいふは  
あまのついでに秋の月をいふは

道門

谷月

あまのついでに秋の月をいふは  
あまのついでに秋の月をいふは  
あまのついでに秋の月をいふは

千楯

野月

あまのついでに秋の月をいふは  
あまのついでに秋の月をいふは  
あまのついでに秋の月をいふは

周政

橋月

あまのついでに秋の月をいふは  
あまのついでに秋の月をいふは  
あまのついでに秋の月をいふは

清史

水辺月

あまのついでに秋の月をいふは  
あまのついでに秋の月をいふは  
あまのついでに秋の月をいふは

春房





山家月 月夜の空に人よりの光を照らす  
 山家月 月夜に秋の風を吹かす  
 田家月 一軒の土間に月影を照らす  
 田家月 猶も秋の月影を照らす  
 田家月 社に月影を照らす  
 閑庭月 庭に月影を照らす  
 野亭月 野に月影を照らす  
 柳菴月 柳の影に月影を照らす  
 月あけの空に人よりの光を照らす

光秋  
 安蔭  
 依古  
 常嶋  
 殿村 文女  
 光秋  
 伴雄  
 清魚  
 忠順

庭月 月夜に秋の風を吹かす  
 竹窓月 竹の影に月影を照らす  
 名所月 名所に月影を照らす  
 羈中月 羈中に月影を照らす  
 松間月 松の影に月影を照らす  
 月入簾 月影を照らす

是正  
 芳樹  
 大加 晴澄  
 叔藤 實村  
 秀雄  
 残櫻  
 杉井 義行  
 言林  
 直豊  
 良臣





初雁

佐保の初雁つゝ秋風ふきよけつゝ

百枝

初雁の初雁つゝ秋風ふきよけつゝ

残櫻

あついで初雁つゝ秋風ふきよけつゝ

藤女

霧中雁

霧の中雁つゝ秋風ふきよけつゝ

世茂

風前雁

風の前雁つゝ秋風ふきよけつゝ

伴雄

夕雁

夕の雁つゝ秋風ふきよけつゝ

知雄

旅宿雁

旅宿の雁つゝ秋風ふきよけつゝ

美韶

鳴

鳴の雁つゝ秋風ふきよけつゝ

羊長

鳴の雁つゝ秋風ふきよけつゝ

羊平

飯田

羊平

羊長

美韶

知雄

伴雄

世茂

藤女

残櫻

百枝

鶉

鶉の鶉つゝ秋風ふきよけつゝ

清根

里鶉

里の鶉つゝ秋風ふきよけつゝ

惠通

秋夕

秋夕の鶉つゝ秋風ふきよけつゝ

保成

秋夕の鶉つゝ秋風ふきよけつゝ

篤

秋夕の鶉つゝ秋風ふきよけつゝ

安守

秋夕の鶉つゝ秋風ふきよけつゝ

種実

秋夕の鶉つゝ秋風ふきよけつゝ

仲雄

秋夕の鶉つゝ秋風ふきよけつゝ

建女

秋夕雲

秋夕の雲つゝ秋風ふきよけつゝ

時賞

秋夕の雲つゝ秋風ふきよけつゝ

時賞

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

秋夕

秋夕雲

鶉

里鶉

</

海辺  
秋夕

浦秋夕

花洛  
秋夕

羈中  
秋夕

秋  
真

山路  
秋真

秋  
望

鹿

磯山夕月もあつてこの中へちかみ涙をぬかすは  
忠順

そらちや浦の煙のゆくふらふらと秋の夕暮  
英為

なれは夕月のまをくちのゆくやふか秋の夕暮  
うね女

いふまにやうらふらと秋の夕暮  
足穂

そらちや山吹の枝かへりて月やうらふ夕暮の枝は  
安海

かへりて葉の下へて夕暮かへりて月やうらふ夕暮  
百枝

夕暮の夕暮の浦まじりて夕暮かへりて月やうらふ夕暮  
俊栄

夕暮の夕暮の浦まじりて夕暮かへりて月やうらふ夕暮  
忠傳

夕暮の夕暮の浦まじりて夕暮かへりて月やうらふ夕暮  
頼中

夕暮の夕暮の浦まじりて夕暮かへりて月やうらふ夕暮  
重老

月前鹿

夕鹿

谷鹿

橋鹿

田家鹿

夕暮の夕暮の浦まじりて夕暮かへりて月やうらふ夕暮  
昭信

夕暮の夕暮の浦まじりて夕暮かへりて月やうらふ夕暮  
嘉彦

夕暮の夕暮の浦まじりて夕暮かへりて月やうらふ夕暮  
孫重

夕暮の夕暮の浦まじりて夕暮かへりて月やうらふ夕暮  
久達

夕暮の夕暮の浦まじりて夕暮かへりて月やうらふ夕暮  
文清

夕暮の夕暮の浦まじりて夕暮かへりて月やうらふ夕暮  
廣門

夕暮の夕暮の浦まじりて夕暮かへりて月やうらふ夕暮  
磐里

夕暮の夕暮の浦まじりて夕暮かへりて月やうらふ夕暮  
長世

夕暮の夕暮の浦まじりて夕暮かへりて月やうらふ夕暮  
徳能

夕暮の夕暮の浦まじりて夕暮かへりて月やうらふ夕暮  
清川



紅葉

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

三井 高尾

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

吉満

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

是秀

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

保成

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

忠順

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

篤 高橋 弘 恭

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

和男

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

成美

初紅葉

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

雛女

紅葉 浅深

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

雛女

賞与六十七

紅葉

有連連

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

中山 美石

紅葉 遍

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

牛田 豊方

山紅葉

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

俊和

杜紅葉

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

源女

船中紅葉

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

秀守

取復渡の宮の

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

正典

柞

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

長枝

柞

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

美記

柞

あつちのこころを紅葉のいろに染めたる

正孝

葛

新月おろすれはゆく桂葉あかりく白き毛もあやを

保成

山下 利高

さきかきまきぬ山の松の枝とわむきまかりくくを

郁女

落栗

おつ枝をかきくさるるらうねく桂葉らうさきかりくを

高鞆

里のまかりそのかり葉の葉もあねたあつはまふらう

秀守

菌

庭のくちまきとらふのりくをまきまきまきまきまき

俊栄

秋の奇の中

山松の尾葉まうとをかきまきまきまきまきまきまき

百枝

ゆふかきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

道利

ふねく桂葉の葉まきまきまきまきまきまきまき

守一

秋の枝のまきまきまきまきまきまきまきまきまき

重光

暮秋

この日の秋は空を渡る鳥の色もあやしく秋のゆきむ

正孝

あもくく小葉まきまきまきまきまきまきまきまき

芳樹

ふねく桂葉の葉まきまきまきまきまきまきまき

田鶴女

あもくく桂葉の葉まきまきまきまきまきまきまき

清野

暮秋月

秋の空にゆく鳥の色もあやしく秋のゆきむ

千指

あもくく小葉まきまきまきまきまきまきまきまき

こか女

暮秋雲

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

知雄

暮秋雨

ゆふかきまきまきまきまきまきまきまきまき

俊栄

暮秋山

あもくく桂葉の葉まきまきまきまきまきまきまき

美詔

行路暮秋

あもくく桂葉の葉まきまきまきまきまきまきまき

俊雄



暮秋川 のり川 瑞舟 のり舟 の目影 のり目影 秋暮 のり秋暮 清魚

暮秋海 のり海 文清

暮秋 紅葉 青林 親持

暮秋虫 のり虫 松樹

暮秋鐘 のり鐘 泰平

九月尽 のり尽 濱雄

閏九月尽 のり尽 高橋 源女

塩路 有年

正月 のり正月 正方

秋 雨 のり雨 安緒

秋 時雨 のり時雨 尊孫

秋 朝 のり朝 是正

秋 夜 のり夜 伴雄

秋 夜 漸長 幸年

秋 野 のり野 守一

秋 野 志帰 顯周

秋 水 のり水 濱臣

谷 のり谷 安守

藤 女

福原

かきつばたのうらみかきつばたのうらみ

内遠

秋浦

まきのほしの別れは浦のほとけの村

石田千穎

山家秋深

社はけぬ柿のころもさかしくせ

久秋

田家秋

あきあき秋の月影のまはる

三子

秋情

あきあき秋の情はさかしくせ

源女

秋思

あきあき秋の思はさかしくせ

正甫

秋色

あきあき秋の色はさかしくせ

善水

秋

あきあき秋の思はさかしくせ

和男

秋

あきあき秋の色はさかしくせ

延年

志賀

冬部

初冬

松の木のまはるあきあき秋の色

小次 蘆菴

初冬

梅の木のまはるあきあき秋の色

芳樹

初冬

あきあき秋の思はさかしくせ

義賢

初冬

あきあき秋の色はさかしくせ

源女

初冬

あきあき秋の思はさかしくせ

清平

初冬

あきあき秋の色はさかしくせ

延壽尼

初冬

あきあき秋の思はさかしくせ

光捕

初冬

あきあき秋の色はさかしくせ

正方

初冬

あきあき秋の思はさかしくせ

昭信

尾上





夕落葉 村のねてつねに木はたけりし木もさか  
千郷

夕落葉 夕の影はさびしき木はたけりし木もさか  
永章

夕落葉 夕の影はさびしき木はたけりし木もさか  
汎近

夕落葉 夕の影はさびしき木はたけりし木もさか  
僧 圓中

水上落葉 早雁の影はさびしき木はたけりし木もさか  
永平

川落葉 ちりちりと流るる水もさか  
孝平

夕落葉 夕の影はさびしき木はたけりし木もさか  
秋告

社頭落葉 宮の影はさびしき木はたけりし木もさか  
頭平

齋宮の影はさびしき木はたけりし木もさか

山家落葉 山の家はさびしき木はたけりし木もさか  
弘訓

閑居落葉 閑居はさびしき木はたけりし木もさか  
挿実

閑居落葉 閑居はさびしき木はたけりし木もさか  
僧 百枝

閑居落葉 閑居はさびしき木はたけりし木もさか  
良盛

残菊 秋の影はさびしき木はたけりし木もさか  
喜彦

残菊 秋の影はさびしき木はたけりし木もさか  
織一

残菊 秋の影はさびしき木はたけりし木もさか  
狩女

残菊 秋の影はさびしき木はたけりし木もさか  
蟹里

残菊 秋の影はさびしき木はたけりし木もさか  
内遠

霜

かきこもるもひらふもゆきわしらのやまおくれと

清直

あまのけくもたのけりけしんはまらふまふふり

言林

秋のやまふふえしむきのよなくおふ結りくれば

千々

初霜

そらくもきふくまより朝霜もあまのけりくれば

道門

朝霜

ねらふりけりぬのねらふりぬのねらふりぬのねらふり

小縮

村花畑まらふりぬのねらふりぬのねらふりぬのねらふり

高重

野霜

くらしんけりぬのねらふりぬのねらふりぬのねらふり

美孝

山家朝霜

いづれもけりぬのねらふりぬのねらふりぬのねらふり

尊孫

閑居霜

きりぬのねらふりぬのねらふりぬのねらふりぬのねらふり

長彦

枯野

くらしんけりぬのねらふりぬのねらふりぬのねらふり

知難

木枯

くらしんけりぬのねらふりぬのねらふりぬのねらふり

為彦

きりぬのねらふりぬのねらふりぬのねらふりぬのねらふり

秀守

寒州

くらしんけりぬのねらふりぬのねらふりぬのねらふり

秋告

くらしんけりぬのねらふりぬのねらふりぬのねらふり

法平

くらしんけりぬのねらふりぬのねらふりぬのねらふり

通孝

くらしんけりぬのねらふりぬのねらふりぬのねらふり

久淳

くらしんけりぬのねらふりぬのねらふりぬのねらふり

蟹樹

くらしんけりぬのねらふりぬのねらふりぬのねらふり

竹樹枝

寒州風

くらしんけりぬのねらふりぬのねらふりぬのねらふり

知雄

くらしんけりぬのねらふりぬのねらふりぬのねらふり

安守









霰

直豊  
成美  
應寅  
嵩道  
文清  
中守臣  
是正  
三子  
真関  
千廣

月前霰

霰

雪

遠山  
初雪

菅彦  
清平  
郁女  
渡行篤  
高靴  
僧倫龍  
真由羅  
長總  
石井通庸  
大坪清信

老後  
見雪

あまの老いさかしの雪のふりゆくは

篤

月前雪

あまの月夜の雪のふりゆくは

尊朝

朝雪

あまの朝の雪のふりゆくは

諸史

暮雪

あまの暮の雪のふりゆくは

安守

夕雪

あまの夕の雪のふりゆくは

三子

夜雪

あまの夜の雪のふりゆくは

隆女

山雪

あまの山の雪のふりゆくは

高重

山雪

あまの山の雪のふりゆくは

保成

山雪

あまの山の雪のふりゆくは

永平

山雪

あまの山の雪のふりゆくは

菅七十九

遠山雪

あまの遠山の雪のふりゆくは

百枝

嶺雪

あまの嶺の雪のふりゆくは

貫忠

関路雪

あまの関路の雪のふりゆくは

廣足

行路雪

あまの行路の雪のふりゆくは

真由羅

池辺雪

あまの池辺の雪のふりゆくは

保成

川雪

あまの川の雪のふりゆくは

尊澄

海辺雪

あまの海辺の雪のふりゆくは

俊栄

文清

あまの文清の雪のふりゆくは

水野

文清

あまの文清の雪のふりゆくは

從

文清

あまの文清の雪のふりゆくは

從

鳴雪  
 松樹  
 信効  
 久秋

里雪  
 守一  
 春門  
 千稻  
 延裕  
 知空

田家雪  
 清年  
 名所雪  
 裁之  
 羈中雪  
 竹内直道  
 竹雪  
 正復  
 船中雪  
 秋告  
 雪中鳥  
 尊孫  
 雪中鶴  
 野有年  
 雪中獸  
 濱雄  
 雪中客來  
 竹内直道





清魚  
 知空  
 富聖 廣蔭  
 正孝  
 陶政  
 種実  
 重遠  
 邦彦  
 效忠  
 藤田 殖政  
 惜歳暮

漁雄  
 保成  
 美石  
 景樹  
 三下あかり  
 安河  
 正主  
 清年

待春

女とす心よりうらまへの外の梅のそよめおれさうり  
中極ふらうりうらまへのそよめも溝ふらうりまをそよめ

頭周

春漸近

あゝあゝ女もまじくならぬむきのさすまの梅の  
一あゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ

郁女

尽日

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

雛女

除夜

はよあけて人三日月あわのまのまのまのまのまの  
あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ

是正

除夜曉

あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ  
あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ

保成

冬日

あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ  
あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ

廣足

冬雨

あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ  
あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ

千別

新居  
正匡

冬朝

あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ  
あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ

汎近

冬夜

あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ  
あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ

高鞞

冬夜  
難明

あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ  
あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ

自寛

冬田

あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ  
あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ

清夫

冬川

あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ  
あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ

壽仙

菘屋冬

あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ  
あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ

盛次

冬鳥

あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ  
あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ

建正

冬鳥

あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ  
あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ

光秋

冬鳥

あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ  
あけぬまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝまもあゝ

易典



冬	鶴	ちつとせうのみちひろひをかきとゆはわくちよとあはれうか	実村
冬	麩	雪うとち朽木のやけは熊のまはる葉をふふをやまうじ	俊 一

